

Oxford Reading Tree Level 6 Stories

- ① In the Garden 「お庭で」
- ② Kipper and the Giant 「キッパーと巨人」
- ③ The Outing 「遠足」
- ④ Land of the Dinosaurs 「恐竜の国」
- ⑤ Robin Hood 「ロビン・フッド」
- ⑥ The Treasure Chest 「宝箱」

In the Garden 「お庭で」

- PG 1: Kipper went into Chip's room and picked up the magic key.
The key began to glow.
"Oh help!" said Kipper.
キッパーはチップの部屋に行き、マジックキーを手に取りました。
鍵が光り始めました。
「助けて！」とキッパーが言いました。
- PG 2: Kipper ran outside and looked for Biff and Chip.
"Help!" he called. "The key is glowing."
キッパーは外に飛び出して、ビフとチップを捜しました。
「助けて！」とキッパーは叫びました。「鍵が光ってるんだ」
- PG 3: Biff and Chip were playing with Wilf and Wilma.
They were playing in the sandpit.
"Look at the magic key," called Kipper.
ビフとチップはウィルフとウィルマと遊んでいました。
みんなは砂場で遊んでいました。
「マジックキーを見て」とキッパーが言いました。
- PG 4: Biff was cross with Kipper.
"Come on everyone," she yelled. "Run inside. Get to the magic house."
ビフはキッパーにむっとしました。
「さあ、みんな」ビフは大きな声で言いました。
「早く家に入って。魔法の家に行くのよ」
- PG 5: It was too late. The magic began to work.
The children got smaller and smaller.
もう手遅れでした。魔法が働き始めたのです。
子どもたちはどんどん小さくなりました。
- PG 6: The children were in the grass and everything looked big.
The grass was like a jungle.
"What big flowers!" said Kipper.
子どもたちは草の中にいました。何もかもが大きく見えました。
草はジャングルのようにでした。
「なんて大きな花なんだ！」とキッパーが言いました。

- PG 7: Chip saw a bumble-bee. He didn't like it and he didn't like the jungle.
"Let's get out of here," he called.
チップはマルハナバチを目にしました。チップはハチが嫌だったしジャングルも嫌でした。「ここから出ようよ」とチップは叫びました。
- PG 8: The children came out of the jungle. They came to a mountain.
"What a big mountain!" said Wilf.
子どもたちはジャングルから抜け出しました。そして山までやって来ました。
「なんて大きな山なんだ！」とウィルフが言いました。
- PG 9: Chip began to climb. He wanted to get to the top.
"Come on," he said. "Let's climb up."
チップは登り始めました。頂上まで行きたかったのです。
「さあ」チップが言いました。「登ろうよ」
- PG 10: The children got to the top. Kipper was hot.
"I don't like climbing mountains," he said.
子どもたちは頂上に着きました。キッパーは熱くなりました。
「僕、山登りなんか嫌いだ」キッパーが言いました。
- PG 11: The children looked at the sand. "It looks like a desert," said Biff.
"Let's go down."
"Oh no!" said Kipper.
子どもたちは砂場を眺めました。「砂漠みたいね」とビフが言いました。
「降りてみましょうよ」
「えー！」とキッパーが言いました。
- PG 12: "Look at the toy car," said Wilma.
"Let's get inside and ride down. We can ride down to the desert."
「見て、おもちゃの車よ」とウィルマが言いました。
「乗って車で降りましょうよ。砂漠まで降りて行けるわ」
- PG 13: Whoosh! The car took them down the mountain.
"This is fun," said Wilma.
シャー！車で山を下りました。
「おもしろ〜い」とウィルマが言いました。
- PG 14: The car stopped in the sand. The children climbed out.
"Oh no!" said Wilf. "Look at that big cat."
車は砂にはまって止まりました。子どもたちは這い出てきました。
「大変だ！」とウィルフが言いました。「あの大きな猫を見て」

- PG 15: The children climbed inside a bottle. Kipper was frightened.
"I don't like this," he said.
子どもたちはビンの中にもぐり込みました。キッパーは怖くなりました。
「僕、こんなの嫌だ」とキッパーが言いました。
- PG 16: The cat looked inside the bottle. It pushed it with its paw.
"Go away, cat," shouted Kipper.
"Shoo!" everyone yelled.
猫はビンの中を覗きました。そしてビンを前足で押してきました。
「猫め、あっち行け」とキッパーが叫びました。
「しっ、しっ！」とみんなが大声をあげました。
- PG 17: Floppy chased the cat away. The children climbed out of the bottle.
"Good old Floppy!" said Biff.
フロッピーが猫を追い払ってくれました。子どもたちはビンから這い出てきました。
「よくやったわ、フロッピー！」ビフが言いました。
- PG 18: They walked over the desert. Everyone felt hot.
Everyone felt very hot.
"I want a drink," said Kipper.
子どもたちは砂漠の上を歩きました。みんな熱くなりました。
とても熱くなりました。
「何か飲みたいな」キッパーが言いました。
- PG 19: "Look!" said Wilf. "Giant strawberries!"
The children ran to eat them.
"I love strawberries," said Chip.
"So do I," said Wilf.
「見て！」ウィルフが言いました。「おばけみたいに大きなイチゴ！」
子どもたちはイチゴを食べようとかけ寄りました。
「イチゴだーいすき」とチップが言いました。
「ぼくもだよ」ウィルフが言いました。
- PG 20: The children ate the strawberries. They pulled off big lumps.
Kipper licked his lips.
"I like this adventure now," he said.
子どもたちはイチゴを食べました。みんな大きなかたまりをもぎ取りました。
キッパーは唇をなめました。
「ぼくこの冒険が気に入ったよ」キッパーが言いました。

- PG 21: It began to rain.
“What big drops!” said Wilma.
“I feel sick now,” said Kipper.
“So do I,” said Chip.
雨が降り出しました。
「なんて大きなしずくなの！」とウィルマが言いました。
「ぼく、気持ち悪くなっちゃったよ」キッパーが言いました。
「ぼくもだ」とチップが言いました。
- PG 22: The children ran to a giant flowerpot.
They hid under it. The key began to glow.
子どもたちは大きな植木鉢まで走りました。
そしてその下に身を隠しました。鍵が光り始めました。
- PG 23: The magic was over.
“I can’t see,” said Chip. He had the flowerpot on his head.
“I like the hat,” said Wilma.
魔法は終わりました。
「何も見えないよ」とチップが言いました。
チップは植木鉢をかぶっていたのです。
「すてきな帽子だわ」とウィルマが言いました。
- PG 24: Dad looked at his strawberries.
“I don’t know,” he said. “There must be giant slugs round here.”
パパがイチゴを見えています。
「どうのことだろう」とパパが言いました。
「この辺に大きなナメクジがいるに違いない」

Kipper and the Giant 「キッパーと巨人」

- PG 1: Kipper was watching television. He was watching a programme called "The angry giant". He liked the programme.
キッパーはテレビを見ていました。「怒りん坊の巨人」という番組でした。キッパーはその番組が気に入りました。
- PG 2: The angry giant lived in a castle near a village. Nobody in the village liked the giant. He was always cross.
その怒りん坊の巨人は村の近くの城に住んでいました。村にその巨人が好きだという者は一人もいませんでした。巨人はいつも怒ってばかりいたからです。
- PG 3: When the giant was cross he stamped his feet and the houses shook. "Oh no!" everyone said. "He's cross again. He's always cross."
巨人は怒ると足を踏みならしたので、家々がゆれました。「まいったなあ！」みんなが言いました。「また巨人が怒ってる。あいつはいつだって怒ってばかりなんだから」
- PG 4: Kipper went to find Chip but he was out. He picked up the magic key and it began to glow. "Ooh!" said Kipper.
キッパーはチップを捜しに行きましたが、チップは出かけていました。キッパーがマジックキーを手にとると、鍵が光りだしました。「うわあ！」キッパーが言いました。
- PG 5: He ran to get Biff but she was out with Chip. The magic began to work. It took Kipper inside the magic house.
キッパーは急いでビフを探しに行きましたが、ビフはチップと一緒に出かけていました。魔法の力が働き始めました。キッパーは魔法の家の中へ連れて行かれました。
- PG 6: The magic took Kipper to the gate of the giant's castle. Kipper was frightened.
魔法の力で、キッパーは巨人の城の門のところまでやってきました。キッパーは怖くなりました。
- PG 7: He saw a signpost. It pointed to the village.

He didn't want to meet the giant, so he went to the village.
キッパーは道しるべを目にしました。それは、村への道を指していました。
巨人に会うのはいやだったので、キッパーは村へと向かいました。

- PG 8: Kipper came to the village but it was tiny. Kipper was a giant.
"Oh no!" said Kipper.
キッパーは村に着きました。けれど村は小さなものでした。キッパーは巨人になっていました。
「なんてこった！」キッパーは言いました。
- PG 9: "Go away," yelled the people. "We don't want you. We've got one giant. We don't want another one."
「出て行け！」人々は叫びました。「お前なんかいらぬ。ここにはもう巨人が一人いるんだから。また巨人が増えるなんてごめんだね」
- PG 10: The people threw things at Kipper.
"Go away," they yelled. "We don't want another giant. We don't want you."
人々はキッパーに物を投げつけました。
「出て行け」人々は叫びました。「もう巨人はたくさんだ。お前なんかいらぬ」
- PG 11: "Stop it," shouted Kipper. "I'm not a giant. I'm a boy."
The people said, "Well, you look like a giant."
「やめてよ」キッパーが叫びました。「ぼくは巨人じゃない。男の子だよ」
人々は「うーん、でも巨人のように見えるからなあ」と言いました。
- PG 12: Kipper began to cry.
"I'm not a giant," he said. "I'm a little boy and I don't like this adventure"
キッパーは泣き始めました。
「ぼく、巨人じゃないのに」キッパーは言いました。「ぼくは小さな男の子なんだ。こんな冒険もういやだ」
- PG 13: "Giants don't cry," said the people. "Perhaps he is a little boy but he looks like a giant to us. Perhaps he can help us."
「巨人は泣いたりしないぞ」と人々は言いました。「もしかしたらこいつは小さな男の子なのかもしれない。我々には巨人のように見えるけれど。ひよっとしたら我々の役に立ってくれるかもしれないぞ」
- PG 14: Kipper helped the villagers to mend their houses.
He put back the broken roofs.
"Good old Kipper," everyone said.

キッパーは村人が家を直すのを手伝いました。壊れた屋根を元に戻しました。

「たいしたもんだ、キッパー」みんなが言いました。

- PG 15: “The giant threw this big stone at us,” said the people.
“We don’t want it here. Can you put it outside the village?”
「巨人がこの大きな石を投げてきたんだ」人々が言いました。
「こんなものがここにあると邪魔なんだ。村の外に持って行ってくれるかい？」
- PG 16: “Yes,” said Kipper, “I’ll try.”
He picked up the stone and took it outside the village.
“Good old Kipper!” everyone called.
「うん」キッパーが言いました。「やってみるよ」
キッパーは石を持ち上げて、それを村の外へ持って行きました。
「たいしたもんだ、キッパー！」みんなが言いました。
- PG 17: All the people liked Kipper.
“Thank you,” they said. “You have helped us a lot.”
The village band played for him.
みんなキッパーのことが好きになりました。
「ありがとう」みんなが言いました。「本当に助かったよ」
村の楽団がキッパーのために演奏しました。
- PG 18: The giant came back. He was very angry when he saw Kipper in the village.
巨人が戻って来ました。キッパーが村にいることに気づくと、巨人はとても怒りました。
- PG 19: “I’m the giant here,” he shouted. He ran towards the village.
Crash! He fell over the stone.
“Ouch!” he yelled.
「俺がこの村の巨人だぞ」巨人は叫びました。そして村に向かって走りましました。
ドシン！ 巨人は石につまずき転びました。
「いて！」巨人は叫びました。
- PG 20: The people were frightened but Kipper went to help the giant. He picked up the giant’s things and put a bandage round his head.
人々はおびえていました。でもキッパーは巨人を助けに行きました。
キッパーは巨人の荷物を拾い、頭に包帯を巻いてあげました。
- PG 21: Kipper was bigger than the giant.

“Be a good giant,” said Kipper. “Stop being angry and the people will like you.”

キッパーは巨人よりも大きかったのです。

「優しい巨人になるんだ」キッパーは言いました。

「怒るのをやめれば、みんな君のことを好きになってくれるよ」

PG 22: So the giant stopped being angry.

“I’ll try to be good,” he said.

“Hooray!” shouted the people. “Let’s have a party!”

そこで、巨人は怒るのをやめました。

「みんなに優しくするようにするよ」と巨人は言いました。

「ばんざい！」人々は声をあげました。「パーティーを開こう！」

PG 23: The key began to glow.

“It’s time for me to go now,” said Kipper. “Good bye. Thank you for the party.”

鍵が光り始めました。

「もう行かなくちゃ」キッパーが言いました。

「さようなら。パーティーをありがとう」

PG 24: The magic took Kipper home.

“Nobody likes an angry giant,” said Kipper. “What an adventure!”

魔法の力でキッパーは家に戻りました。

「怒りん坊の巨人なんて、誰も好きにならないよ」キッパーが言いました。

「何て冒険だ！」

The Outing 「遠足」

- PG 1: A bus came to the school. The children climbed in.
"I like going out," said Wilf.
"Don't push," said Mrs May.
バスが学校にやって来ました。子どもたちが乗り込みました。
「ぼく、出かけるの好き」ウィルフが言いました。
「押してはいけませんよ」メイ先生が言いました。
- PG 2: The bus set off.
"Hooray!" shouted the children. "We're going to the zoo."
"Don't shout, children," said Mrs May.
バスが出発しました。
「やった！」子どもたちが歓声をあげました。「動物園に行くんだ」
「あなたたち、大声を出さないで」メイ先生が言いました。
- PG 3: Biff sat with Chip. Wilf sat with Nadim.
"This is fun," shouted Nadim.
"It is if you don't shout," said Mrs May.
ビフはチップと一緒に座りました。ウィルフはナディムと座りました。
「楽しいな」ナディムが叫びました。
「あなたが大声を出さなければね」メイ先生が言いました。
- PG 4: The bus stopped on the way. The children climbed out. Some children looked at the water. Some children went to the toilet.
バスは途中で止まりました。子どもたちは降りました。
川を眺める子もいれば、トイレに行く子もいました。
- PG 5: "Don't run away," said Mrs May, "and don't go too near the water."
「遠くへ行ってはいけませんよ」とメイ先生が言いました。
「それと、水辺に近寄りすぎないこと」
- PG 6: Wilf kicked a stone and his shoe came off.
The shoe landed in the water with a splash.
"Oh Wilf!" said Biff.
ウィルフは石を蹴りました。すると靴がぬげてしまいました。
靴は水の中にバンシャンと落ちました。
「もう、ウィルフったら！」とビフが言いました。

- PG 7: Wilf couldn't get his shoe. He told Mrs May about it.
"What a silly thing to do!" she said. "I don't know what we can do."
ウィルフは靴を取り戻せませんでした。
ウィルフはメイ先生にそのことを話しました。
「なんてばかな事をしたんですか！」先生が言いました。
「もうどうしようもないわ」
- PG 8: When they got to the zoo it began to rain.
The children climbed out of the bus and Mrs May went to get the tickets.
一行が動物園に着く頃には、雨が降り始めました。
子どもたちはバスを降り、メイ先生は入場券を買いに行きました。
- PG 9: Nadim wanted to see the elephants.
Wilf wanted to see the lions and Biff wanted to see the crocodiles.
"I hope the rain stops," said Mrs May.
ナディムはゾウが見たいと思いました。
ウィルフはライオンが見たくて、ビフはワニが見たいと思いました。
「雨が止むといいのだけど」メイ先生が言いました。
- PG 10: It rained and rained. The children were fed up. The animals were fed up too.
"Don't get wet," said Mrs May.
雨は降り続けました。子どもたちはうんざりしていました。動物たちもうんざりしていました。
「濡れないようにするんですよ」メイ先生が言いました。
- PG 11: The rain didn't stop so the children climbed back on the bus.
"Can we go to the museum?" asked Nadim.
"What a good idea!" said Mrs May.
雨が止まなかったので、子どもたちはバスに戻りました。
「博物館に行ってはどうですか？」ナディムが言いました。
「まあ！それはいいわね！」メイ先生が言いました。
- PG 12: They went to a museum. "This is good," said Wilf. "We can see dinosaurs here."
"I like dinosaurs," said Nadim.
みんなは博物館に行きました。「おもしろそう」ウィルフが言いました。
「ここで恐竜が見られるぞ」
「僕、恐竜が好きなんだ」ナディムが言いました。
- PG 13: They began to run towards the dinosaurs.
"Don't run," called Mrs May. "The dinosaurs won't go away."

子どもたちは恐竜に向かって走り出しました。
「走ってはいけません」メイ先生が言いました。「恐竜はどこにも行きませ
んよ」

- PG 14: They looked at a big dinosaur.
“What is this one called?” asked Wilf.
“I don’t know yet,” said Nadim. “Let’s go and see.”
みんなは大きな恐竜を見ました。
「これはなんて恐竜！」ウィルフがたずねました。
「わからないよ」ナディムが言いました。「行って見てみよう」
- PG 15: Biff had her camera. She took a photograph of the dinosaur.
“What is it called?” she asked.
“It’s an apatosaurus,” said Nadim.
ビフはカメラを持っていました。ビフは恐竜の写真を撮りました。
「これはなんて恐竜！」ビフがたずねました。
「アパトサウルス(ブロントサウルス)だよ」ナディムが言いました。
- PG 16: The children went into a room.
A lady told them about dinosaurs and showed them some pictures.
子どもたちはある部屋に入りました。
女の人が恐竜の話をして、何枚か絵も見せてくれました。
- PG 17: “I know what that one is called,” said Nadim. “It’s called an apatosaurus.”
“Good, Nadim,” said Mrs May.
「ぼく、あれ何ていうか知ってるよ」ナディムが言いました。
「アパトサウルスっていうんだ」
「よくわかったわね、ナディム」メイ先生が言いました。
- PG 18: The children went to the shop. Wilf got a book about dinosaurs.
Nadim got a model to make. It was a model of an apatosaurus.
子どもたちは売店に行きました。ウィルフは恐竜に関する本を買いま
した。
ナディムは工作模型を買いました。アパトサウルスの模型でした。
- PG 19: “I can make it at home,” he said.
Chip said, “Come to our house. We can help you.”
「これ、家で作るんだ」とナディムが言いました。
「うちにおいでよ。手伝ってあげる」とチップが言いました。
- PG 20: The bus got back to school. It was time to go home.
“Thank you,” said the children. “Thank you for a lovely day.”

バスが学校に戻りました。もう家に帰る時間です。
「ありがとう」子どもたちが言いました。
「楽しい一日をありがとう」

PG 21: “Goodbye, Mrs May,” said Nadim. “Can we draw dinosaurs tomorrow?”
“What a good idea!” said Mrs May.
「メイ先生、さようなら」ナディムが言いました。
「明日、恐竜の絵を書いてもいいですか?」
「まあ、それはいい考えね！」メイ先生が言いました。

PG 22: Nadim and Wilf went home with Biff and Chip.
They went to Chip’s room and began to make the model.
ナディムとウィルフはビフとチップと一緒に家に行きました。
みんなはチップの部屋に行って、模型を作り始めました。

PG 23: The magic key began to glow. Biff ran to the box and picked it up.
“Come on,” she called. “It’s time for a magic adventure.”
マジックキーが光り始めました。ビフは箱にかけよって、鍵を取り上げました。
「さあ」ビフは大きな声で言いました。「冒険の時間よ」

PG 24: “Come on Nadim,” called Chip.
“We’re going on a magic adventure. We’re going to the land of the dinosaurs.”
「行こう、ナディム」チップが言いました。
「ぼくたち、魔法の冒険に行くんだよ。恐竜の国へ行くんだ。」

Land of the Dinosaurs 「恐竜の国」

- PG 1: “We are going on a magic adventure” said Chip.
The children went through the door of the magic house.
“Oh help!” said Nadim.
「ぼくたち、魔法の冒険に行くんだよ」とチップが言いました。
子どもたちは魔法の家のドアをぐりました。
「うわあ、助けて！」ナディムが言いました。
- PG 2: The magic took the children to the land of the dinosaurs.
“I don’t want this adventure,” said Nadim.
“I don’t want to meet a dinosaur.”
魔法の力で、子どもたちは恐竜の国へとやってきました。
「ぼく、こんな冒険したくないよ」ナディムが言いました。
「恐竜になんか会いたくない」
- PG 3: A dragon-fly flew by.
“Look at this,” said Chip. “It’s a giant dragon-fly. What a big one!”
トンボがすぐそばを飛んでいました。
「見て」チップが言いました。「巨大トンボだ。なんて大きいんだろう！」
- PG 4: Chip found a footprint. It was a giant footprint.
“Come and look,” said Chip. “It must be a dinosaur’s footprint.”
チップは足跡を見つけました。それは巨大な足跡でした。
「ちょっとこれを見て」チップが言いました。「きっと恐竜の足跡だよ」
- PG 5: Biff took a photograph of the giant footprint.
“I can take this photograph to school,” she said.
ビフは巨大な足跡の写真を撮りました。
「この写真、学校に持って行けるわ」ビフは言いました。
- PG 6: Nadim found some eggs. They were big eggs.
“They must be a dinosaur’s eggs,” he said.
ナディムは卵をいくつかを見つけました。
それは大きな卵でした。「きっと恐竜の卵だよ」とナディムは言いました。
- PG 7: One of the eggs began to crack.
“It’s going to hatch out,” said Biff. Something came out of the egg.
“It’s a little dinosaur,” said Nadim.

卵が一つ、割れ始めました。
「ひながかえるんだわ」ビフが言いました。何か卵から出て来ました。
「小さな恐竜だ」ナディムが言いました。

- PG 8: Something flew by. The children were frightened.
“What is it?” asked Chip.
“I don’t know,” said Biff.
何か飛んできました。子どもたちはぎょっとしました。
「何、あれ？」チップが聞きました。
「わかんない」ビフが言いました。
- PG 9: The children ran.
“It’s a flying dinosaur,” said Nadim, “ and it’s a big one. Come on, let’s hide.”
子どもたちは走りました。
「空飛ぶ恐竜だ」ナディムが言いました。「大きいぞ。早く、隠れよう」
- PG 10: The flying dinosaur flew down to the eggs.
It picked up the little dinosaur in its teeth.
その空飛ぶ恐竜は卵の上に舞い降りました。
小さな恐竜をくわえたのです。
- PG 11: “Oh no!” said Biff. “It’s going to eat it.” She picked up a stick and ran out.
“Go away!” she yelled.
「大変だわ！」ビフが言いました。「食べる気よ」ビフは棒を拾って、走り出しました。
「あっちへ行って！」ビフは叫びました。
- PG 12: The dinosaur flew away but Chip was cross with Biff.
“You were silly,” he said. “It could have got you.”
恐竜は飛んで行きましたが、チップはビフに腹を立てました。
「バカなことして」チップは言いました。
「捕まったかもしれないじゃないか」
- PG 13: Wilf ran on and climbed a hill. He wanted to look for an apatosaurus.
“Come up here Biff,” he called. “You can take a photograph.”
ウィルフが駆け出でて丘に登りました。アパトサウルスを探したかったのです。
「ビフ、ここまで上がっておいでよ」ウィルフはビフを呼びました。
「写真を撮れるよ」
- PG 14: Wilf had not climbed on a hill.

He had climbed on a dinosaur and it was enormous.

It looked round at Wilf.

ウィルフが登ったのは丘ではありませんでした。

登っていたのは恐竜、それも特大の恐竜でした。

恐竜は振返ってウィルフの方を見ました。

PG 15: Wilf was frightened.

“Oh help!” he said.

He jumped down and ran. “Let’s get out of here,” he called.

ウィルフはぎょっとしました。

そして、「うわあ、助けて！」と言いました。

ウィルフは飛び降りて走りました。そして、「ここから逃げよう」と叫びました。

PG 16: “Don’t be frightened,” said Chip. “It’s an apatosaurus. It’s like the one in the museum. It won’t hurt us.”

「怖がらないで」チップが言いました。「アパトサウルスだよ。博物館で見たのと同じだ。人を襲ったりしないよ」

PG 17: Biff took a photograph of it.

“What a long neck it’s got and what a long tail!” she said.

“I need a bigger camera.”

ビフは写真を撮りました。

「なんて長い首をしてるのかしら。それにしっぽもずいぶん長いわね！」とビフは言いました。

「もっと大きなカメラが必要だわ」

PG 18: The apatosaurus ran into the water.

“What an enormous splash!” said Wilf.

Nadim looked frightened. “Oh help!” he called.

アパトサウルスは走りだし水に飛び込みました。

「なんて大きな水しぶき！」ウィルフが言いました。

ナディムがおびえた顔をしていました。「た、助けて！」ナディムが叫びました。

PG 19: Another dinosaur was coming and it looked very fierce.

“Let’s get out of here,” yelled Chip.

別の恐竜が近づいてきていました。その恐竜はとても凶暴そうでした。

「ここから逃げよう」チップが大声で言いました。

PG 20: Biff took a photograph.

“Come on,” yelled Chip, “don’t stop for that. This one could eat us!”

ビフは写真を撮りました。

「早く」チップが叫びました。「立ち止まって写真なんか取ってないで。この恐竜はぼくたちを食べるかもしれないよ！」

PG 21: They began to run away. Wilf's other shoe came off in the mud.
Suddenly, the magic key began to glow.

“Just in time!” said Chip.

こどもたちは逃げ出しました。

ウィルフの残っていた方の靴が泥にはまってぬげてしまいました。

突然、マジックキーが光り始めました。

「ぎりぎりセーフだ！」チップが言いました。

PG 22: The magic took the children to Biff's bedroom.

“What an adventure!” said Biff. “I've got some good photographs.”

魔法の力で子どもたちはビフの部屋へ戻りました。

「なんて冒険！」ビフが言いました。「私、いい写真を何枚も撮ったわ」

PG 23: “This is the fierce dinosaur,” said Chip.

“Did you take its photograph?”

“Yes,” said Biff. “Let's tell Mum and Dad.”

「あの凶暴な恐竜はこれだね」とチップが言いました。

「その写真は撮ったの？」

「うん」とビフが言いました。「ママとパパに報告しましょう」

PG 24: “I took photographs of dinosaurs,” said Biff.

“Oh yes,” said Dad.

“Well, I'm sorry, I didn't put a film in the camera.”

「私、恐竜の写真を撮ったのよ」ビフが言いました。

「あ、そうそう」パパが言いました。

「悪かったね。そのカメラにはフィルムを入れてなかったんだ」

Robin Hood 「ロビン・フッド」

- PG 1: Biff and Wilma went to the pantomime*. They went with Wilma's mum. They had a friend called Anneena. Anneena went to the pantomime with them.
ビフとウィルマはおとぎ芝居に出かけました。ウィルマのママと一緒にでした。
二人にはアニーナという友だちがいました。アニーナも一緒におとぎ芝居に行きました。
(*編集部注:「パントマイム」は日本では、台詞のない、身体表現による無言劇を差す場合が多いが、ここでは昔話などを題材にしたおとぎ芝居の意)
- PG 2: The pantomime was about Robin Hood. Robin Hood was a good man. He lived in a wood with his men. Everyone liked Robin Hood and they gave a cheer every time he came in.
そのおとぎ芝居はロビン・フッドのお話でした。ロビン・フッドは善良な人でした。仲間たちと森の中に住んでいました。ロビン・フッドは人気者で、ロビンがやって来るといつでも人々は歓声をあげました。
- PG 3: There was a bad man called the Sheriff*. Nobody liked the Sheriff. He wanted to catch Robin Hood and lock him up.
“Look out, Robin!” shouted the children.
シェリフという悪人がいました。シェリフはみんなの嫌われ者でした。シェリフはロビン・フッドを捕まえ、閉じ込めてしまいたいと思っていました。「危ない、ロビン！」子どもたちが叫びました。
(*編集部注:sheriff は本来、州の行政官、執政長官の意味だが、ここでは“the Sheriff”で、ロビンフッドの敵として登場する特定の人物を差す。“the Sheriff of Nottingham”、「ノッティンガムの長官」として有名)
- PG 4: The next day, Wilma and Anneena went to play with Biff. They sang a song about Robin Hood. Wilma played her guitar and Anneena played her recorder.
次の日、ウィルマとアニーナはビフのところへ遊びに来ました。子どもたちはロビン・フッドの歌を歌いました。ウィルマがギターを弾き、アニーナが縦笛を吹きました。
- PG 5: Kipper didn't like the song. He put his hands over his ears and made a face. “Woooooooh,” said Kipper.

キッパーはその歌が嫌いでした。両手で耳をおおい、顔をしかめました。
「うううう」キッパーが言いました。

- PG 6: Kipper had a key round his neck. It was the magic key.
Biff was cross with Kipper.
“Put the key back in the box,” she said.
キッパーは鍵を首に下げていました。それはマジックキーでした。
ビフはキッパーのことを怒りました。
「鍵を箱に戻して」ビフは言いました。
- PG 7: Suddenly the key began to glow.
“Look out Anneena,” said Biff. “This is a magic key and the magic is working.
It’s time for an adventure.”
突然、鍵が光り始めました。
「気を付けて、アニーナ」とビフが言いました。
「これはマジックキーで、魔法が働き出したの。冒険の時間よ」
- PG 8: The magic took the children to a wood. It was the wood where Robin Hood lived.
The children could see Robin with some of his men.
魔法の力で子どもたちは森の中にやってきました。それはロビン・フッドが住んでいる森でした。子どもたちは、ロビン・フッドと数人の仲間たちを見つけました。
- PG 9: Robin Hood had not seen the children. Anneena was frightened.
“I hope he is a good man,” she said.
“Come on,” said Kipper, “I can smell food.”
ロビン・フッドは子どもたちに気づいていませんでした。アニーナは怯えています。
「本当に良い人だといいいんだけど」
「行ってみようよ」キッパーが言いました。「食べ物の匂いがする」
- PG 10: Robin Hood saw the children.
“Who are you?” he asked. “Are you lost in the woods? Come and sit down.”
ロビン・フッドは子どもたちに気づきました。
「君たちは誰？」ロビンがたずねました。「森で迷子になったのかい？ ここにきて座りなさい」
- PG 11: The children sat by the fire.
“We saw you in a play,” said Anneena. “We can sing a song about you.”

"Oh no!" said Kipper. "Not the song again."

子どもたちは火のそばに座りました。

「私たち、あなたをお芝居で見たの」とアニーナが言いました。

「私たち、あなたの歌が歌えるのよ」

「あーあ！」キッパーが言いました。「また、あの歌か」

PG 12: Biff, Wilma, and Anneena sang the song. The song said everyone liked Robin but nobody liked the Sheriff. Robin Hood's men gave a cheer.

ビフとウィルマとアニーナが歌を歌いました。その歌は、みんなロビンのことが好きで、誰もシェリフのことは好きじゃないという歌詞でした。ロビン・フッドの仲間たちは歓声を上げました。

PG 13: "What a good song!" said Robin Hood. "Sing it to me again."

Kipper looked inside a big black pot. Nobody saw the Sheriff coming.

「なんていい歌なんだ！」ロビン・フッドが言いました。

「もう一度歌ってくれよ」

キッパーは大きな黒いなべの中を覗きました。誰もシェリフが来ていることに気付いていませんでした。

PG 14: Suddenly the Sheriff's men ran in.

They grabbed Robin Hood and put a rope round him.

"Got you at last!" said the Sheriff.

突然シェリフの兵士たちがかけ込んできました。

兵士たちはロビン・フッドを捕まえ、縄でしばりました。

「やっと、捕まえたぞ！」シェリフが言いました。

PG 15: They jumped on Robin's men and they grabbed Biff, Wilma, and Anneena.

They put them all into a cart.

"Take them away!" said the Sheriff.

兵士たちはロビンの仲間に飛びかかり捕らえ、ビフ、ウィルマとアニーナも捕まえました。みんなは荷車にのせられました。

「連れて行け！」シェリフが言いました。

PG 16: Kipper hid in the big black pot. The Sheriff's men didn't see him.

"Oh no!" he said. "What can I do? I must help them."

キッパーは大きな黒いなべの中に隠れました。

シェリフの兵士たちはキッパーには気づきませんでした。

「大変だあ！」キッパーが言いました。「どうしよう、ぼくが助けなきゃ」

PG 17: The Sheriff took them to a village. He said, "My castle is too far away, so we will stop here. One of my men will see you don't get away."

シェリフはみんなを村へ連れて行きました。「私の城はまだまだ遠い。ここ

で一泊しよう。お前たちが逃げないよう、兵士の一人を見張りにつけるからな」シェリフは言いました。

- PG 18: Kipper went up to the man. He gave the man a sweet.
“What is that thing?” he asked.
“You lock people up in it,” said the man.
キッパーは見張りの兵士に近づきました。そして兵士にキャンディーを渡しました。
「これは何？」キッパーがたずねました。
「人を縛りつけて鍵をかけるものだ」兵士が言いました。
- PG 19: “You can’t lock people in that,” said Kipper.
“You can’t get them in.”
“Oh yes you can,” said the man. “Look.” He put in his head and his hands.
「こんなので人に鍵をかけることなんて出来っこないよ」とキッパーが言いました。
「人は入れられないよ」
「それが、入るんだよ」兵士が言いました。
「ほらね」兵士は自分の頭と手を入れました。
- PG 20: “Ha!” said Kipper. “You fell for it.”
He locked the man in and took away his keys.
“Grrr!” said the man.
「ハハ！」キッパーが言いました。「引っかかったな」
キッパーは兵士に鍵をかけ、鍵を取り上げました。
「クーッ」兵士が言いました。
- PG 21: Kipper set them free.
“Come on, everyone,” said Robin Hood. “Let’s go back to the woods. We don’t want the Sheriff to catch us.”
キッパーはみんなを解放しました。
「さあ、みんな」ロビン・フッドが言いました
「森に帰ろう。シェリフに捕まりたくないからな」
- PG 22: They went to a new part of the woods.
“Three cheers* for Kipper,” said Robin Hood.
“Now let’s sing that song about me again.”
“Oh no!” said Kipper.
みんなは森の新しい場所に移りました。
「キッパーに歓呼三唱！」ロビン・フッドが言いました。
「さあ、ぼくの歌をまた歌おう」
「やれやれ！」キッパーが言いました。

(*編集部注:three cheers とは、何か、誰かを称えて同じセリフを3回繰り返し唱えること。“Hip, hip, hooray!”と唱える場合が多い)

- PG 23: Suddenly the magic key began to glow. “Just in time,” said Kipper.
“It’s time for us to go.”
“Goodbye,” said the children.
“Goodbye,” said Robin Hood, “and thanks.”
突然、マジックキーが光り始めました。「ちょうどよかった」キッパーが言いました。
「もう行く時間だ」
「さようなら」子どもたちが言いました。
「さようなら」ロビン・フッドが言いました。「そして、ありがとう」
- PG 24: “What an adventure!” said Anneena.
“I liked Robin Hood and his men. Let’s sing the song.”
“Aaaaaah!” said Kipper.
「なんて冒険！」アニーナが言いました。
「私ロビン・フッドと仲間たちが好き。あの歌を歌いましょう」
「わああああ！」キッパーが言いました。

The Treasure Chest 「宝箱」

- PG 1: Every week Mrs May took some of the children to the swimming pool. The children were good swimmers and they liked going with Mrs May. 毎週メイ先生は、数人の子どもたちをプールに連れて行きました。子どもたちは水泳が上手で、メイ先生と行くのが好きでした。
- PG 2: The children were taking a swimming test. “It’s time to begin,” said Mrs May. “Who wants to go first?” “We do,” said Nadim. 子どもたちは泳ぎのテストを受けていました。「さあ、始めますよ」とメイ先生が言いました。「最初に泳ぎたい人は？」「ぼく達が泳ぎます」とナディムが言いました。
- PG 3: Biff, Chip, Wilma, and Nadim jumped into the pool. The water was warm. “Off you go,” called Mrs May. ビフ、チップ、ウィルマとナディムがプールに飛び込みました。水はあたたかでした。「さあ、始めて」メイ先生が言いました。
- PG 4: They had to swim up and down the pool. They had to swim ten lengths. Wilma was first to swim ten lengths and Biff and Nadim were next. 子どもたちはプールを泳いで、行ったりきたりしなければなりませんでした。端から端まで泳ぐのを十回繰り返さなければなりませんでした。ウィルマが十回を最初に泳ぎきり、ビフとナディムがそれに続けました。
- PG 5: It was hard for Chip to swim the ten lengths. “Come on, Chip,” called Mrs May. “Don’t stop. This is the last length.” So Chip went on and everyone was pleased. チップにとって十回(五往復)は大変でした。「がんばって、チップ」メイ先生が言いました。「止まらないで。これが最後よ」そこでチップはがんばって泳ぎ続け、見ていたみんなも嬉しくなりました。
- PG 6: Next they had to swim to the bottom of the pool. They had to pick up a brick and swim with it to the top. 次に子どもたちはプールの底まで泳いでいかなければなりませんでした。レンガを一つ拾って水面まで持って上がらなくてはなりませんでした。
- PG 7: All the children passed the swimming test. Mrs May was very pleased.

"Well done, everyone," she said. The children were pleased too.

子どもたち全員が泳ぎのテストに合格しました。

メイ先生はとても喜びました。

「皆さん、よくがんばりましたね」先生が言いました。子どもたちも喜びました。

PG 8: Biff and Chip told Mum and Dad about the swimming test.

"We passed," they said. Mum and Dad were very pleased too.

ビフとチップはママとパパに泳ぎのテストのことを話しました。

「合格したよ」二人は言いました。ママもパパも、とても喜びました。

PG 9: Mum and Dad had a surprise for them.

Biff and Chip couldn't see what the surprise was.

"What is it?" asked Biff.

ママとパパから二人に予期せぬごほうびがありました。

ビフとチップにはそのごほうびが何なのか見えませんでした。

「それ、何？」ビフがたずねました。

PG 10: "It's a fish tank," said Biff. "What a lovely surprise!"

Everyone looked at the fish swimming about in the tank.

「水槽だわ」ビフが言いました。「なんて素敵なおほうびなの！」

みんなは水槽の中で泳ぐ魚を眺めました。

PG 11: "There is room for more fish," said Dad.

"We can get some next time we go shopping."

「もっと魚を入れる余裕があるな」パパが言いました。

「今度買い物に行ったときに何匹か買おう」

PG 12: The next day they went shopping. Dad took them to a shop that sold fish.

"What a lovely shop!" said Biff. "Look at all the fish."

次の日みんなは買い物に出かけました。パパは魚を売っている店に子どもたちを連れて行きました。

「なんて、素敵なお店なの」ビフが言いました。「見て見て、魚がいっぱい」

PG 13: There were big fish and little fish. Kipper liked the big fish in a tank.

"Don't tap the glass," said Dad. "The fish don't like it"

大きな魚もいれば小さな魚もいました。キッパーは水槽の中の大きな魚が気に入りました。

「ガラスを叩いちゃだめだぞ」パパが言いました。「魚が嫌がるから」

PG 14: Dad put some more fish in the tank. He put rocks on the bottom.

Next to the rocks he put a ship and a little box.

パパは魚を何匹か水槽に加えました。それから岩を水底に置きました。岩の横には一隻の船と小さな箱を置きました。

- PG 15: Wilma and Nadim came to see the fish tank.
“It looks lovely,” said Wilma. “I wish I could swim in there.”
ウィルマとナディムが水槽を見に来ました。
「素敵だわ」とウィルマが言いました。「この中で泳げたらいいのに」
- PG 16: They went to play in Biff’s room. Chip ran in with the magic key.
The key was glowing.
“It’s time for an adventure,” said Biff.
子どもたちはビフの部屋に遊びに行きました。チップがマジックキーを手
に駆け込んできました。鍵は光っていました。
「冒険の時間ね」とビフが言いました。
- PG 17: The magic began to work. It took the children into a new adventure.
This time it was a different sort of adventure.
魔法の力が働き始めました。子どもたちは新しい冒険へ出発しました。
今回はいつもとは、ちょっと違う冒険でした。
- PG 18: The magic took them underwater. The children had masks and flippers
and tanks of air. They could swim underwater.
魔法の力で子どもたちは水の中へとやってきました。子どもたちはマスク
と、水かきと、酸素ボンベをつけていました。みんなは水の中で泳ぐことが
できました。
- PG 19: The children had never seen so many fish. They were all different colours.
“This is better than the pool,” thought Chip.
“I feel like a fish,” thought Wilma.
子どもたちはこんなにたくさんの魚を見たことがありませんでした。
魚は一つ一つ違った色をしています。
「これはプールよりいいぞ」チップは思いました。
「魚になった気分だわ」ウィルマは思いました。
- PG 20: The children loved swimming under the water.
It was lovely to see all the fish and to swim with them.
子どもたちは水中で泳ぐのが大好きでした。
たくさんの魚を見たり、一緒に泳ぐのはとてもいい気持ちでした。
- PG 21: Chip and Nadim swam to the bottom and picked up a big shell.
Biff looked at a jellyfish but she didn’t swim too close.
チップとナディムは水底まで泳いで、大きな貝殻を拾いました。

ビフはくらげを見ましたが、あまり近づきはしませんでした。

- PG 22: They saw a ship under the water.
It was an old ship that had been under the water for a long time.
子どもたちは水中で一隻の船を見つけました。
それは長い間、水底にあった古い船でした。
- PG 23: They swam up to the ship. Wilma didn't want to swim too close to it.
It looked dangerous.
子どもたちは船まで泳いで行きました。ウィルマはあまり近づきたくはありませんでした。危険に思えたからです。
- PG 24: They saw an octopus. Oh no! It was sitting on a chest.
They couldn't look inside the chest with an octopus sitting on the lid.
子どもたちはタコを見つけました。大変！タコは箱の上に座っています。
タコがふたの上に乗っているせいで、箱の中を見ることが出来ません。
- PG 25: They blew bubbles at the octopus.
The octopus didn't like the bubbles so it swam away.
"Good!" thought the children. "Now we can look inside."
子どもたちは、タコに向かって泡を吹きました。
タコは泡が嫌いだったので、泳いで逃げてしまいました。
「やった！」子どもたちは思いました。「これで中が見られるぞ」
- PG 26: The children opened the chest and looked inside.
It was a treasure chest and it was full of gold.
子どもたちは箱を開けて、中を見ました。
それは宝箱で、金がいっぱい詰まっていました。
- PG 27: Biff and Wilma pushed the chest over and all the gold fell out.
Nadim picked up a necklace and Biff picked up a gold cup.
ビフとウィルマが箱をひっくり返すと、金がすべて飛び出しました。
ナディムはネックレスを拾い、ビフは金の杯を拾いました。
- PG 28: Biff and Nadim were busy looking at the treasure. They didn't see what Chip and Wilma saw. A shark was coming.
ビフとナディムは宝物に目をうばわれていました。二人はチップとウィルマには見えていたものに気づきませんでした。サメが近づいてきていたのです。
- PG 29: Chip and Wilma couldn't tell Biff and Nadim.
They pulled them away and pointed at the shark.

チップとウィルマはビフとナディムに、そのことをことばで教えてあげることが出来ませんでした。二人はビフとナディムを引っ張って、サメを指差しました。

- PG 30: The children were frightened. They swam and swam but the shark swam after them. Then the magic key began to glow.
子どもたちはぎょっとしました。必死で泳ぎ続けましたが、後からサメが追って来ます。その時、マジックキーが光り始めました。
- PG 31: The magic key took them out of the adventure.
“Wow! What an adventure!” said Biff.
“The treasure chest was like the one in our fish tank.”
マジックキーは、みんなを冒険から連れ出しました。
「うわ！なんて冒険だ！」ビフが言いました。
「あの宝箱は、うちの水槽の中にあるのと似ていたわ」
- PG 32: The children ran to look in the fish tank.
“Look, there’s the treasure,” said Chip.
“How did it get there?” asked Nadim.
“It’s magic!” said Biff.
子どもたちは水槽の中を見ようとかけ寄りました。
「見て、宝物があるよ」チップが言いました。
「どうしてここにあるのかな？」ナディムが聞きました。
「魔法よ！」ビフが言いました。